

		研究概要	
番号	研究事項	担当教員	連絡先 e-mail
			※□を@に変えて送って下さい
1	情報学を用いた法学へのアプローチ	情報学的な視点から法学を考える研究を募集する。	ksatoh□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		佐藤 健	
2	SAT技術に基づいて困難な問題を解決する研究	各種の推論, 制約充足・最適化, システム検証などの問題に対し, 高速なSAT技術を利用して大規模問題や未解決問題の解法を試みる。	ki□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
3	推論による仮説発見および科学への応用に関する研究	アブダクションや帰納論理プログラミングなどの仮説発見に関する基礎研究, および生物学など科学における知識発見への応用を行う。	ki□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
4	型付きラムダ計算	高階型理論, ラムダミュー計算, 型付き関数型プログラミング言語, 強正規化可能性, 合流性, 意味論などをテーマとする型付きラムダ計算に関する研究。	tatsuta□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		龍田 真	
5	数値線形代数に関する研究	数値線形代数の理論, アルゴリズム, 実装, 応用に関する共同研究を行う。	hayami□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		速水 謙	
6	セマンティックWeb技術に基づく情報共有支援	セマンティックWeb技術を用いて様々な情報共有を実現する仕組みについての研究。	takeda□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		武田 英明	
7	セマンティックWeb・ソーシャルWebアプローチに基づく博物館情報支援について研究	セマンティックWeb技術による情報構造化やソーシャルWeb技術を用いた来場者支援といった新しいアプローチによる博物館情報システムの研究。	takeda□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		武田 英明	
8	学術データの分析または新しいサービス開発	NIIが管理している学術データを分析して新しい知見を得るような研究, または学術データの組み合わせ・変換などを行って新しいサービスを提案する研究。	takeda□nii.ac.jp
		学術コンテンツ研究開発センター・センター長	
		武田 英明	
9	学術オントロジーの構築と利用	学術に関するオントロジーを構築する研究, あるいは学術オントロジーを利用する研究	takeda□nii.ac.jp
		学術コンテンツ研究開発センター・センター長	
		武田 英明	
10	列挙アルゴリズム	与えられた問題の解を全て見つける問題を列挙という。列挙問題の持つ構造と, 列挙を行なうアルゴリズムの効率的な構築法を, 離散数学とアルゴリズム理論を用いて研究する。	uno□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		宇野 毅明	
11	組合せ最適化	最適化問題の中でも離散的な構造を持つ物を組合せ最適化という。組合せ最適化を効率良く解くため, 問題が持つ数理的な側面を研究し, またそれを用いたアルゴリズムの研究を行なう。	uno□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		宇野 毅明	
12	データマイニング	列挙や圧縮の技術を中心にして, パターンマイニングやクラスタリングと言った列挙的・発見的なデータマイニング手法とその効率的なアルゴリズムの研究を行なう	uno□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		宇野 毅明	
13	量子情報処理の研究	ハイブリッドなシステムや拡張性の高い大規模な量子情報処理の理論的研究。	nemoto□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		根本 香絵	
14	複雑で多様な化学的問題の解決を目指す化学情報学研究	複雑さと多様性が常に付随する困難な化学的問題の解決を目指す化学情報学研究。化学情報の表現法, 検索, データマイニング, 機械学習応用, 知識発見, 知的インターフェイス, 高速アルゴリズム, 数理科学的アプローチ, グラフ理論, 高品質で実践性の高い化学情報基盤を確立するためのデータ構築・評価等, 基礎から応用までの幅広い研究。	hsatoh□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		佐藤 寛子	

番号	研究事項	研究概要	
		担当教員	連絡先 e-mail ※□を@に変えて送って下さい
15	社会的知能エージェントシミュレーションの研究	物理エージェントにおける力学・視聴触覚のシミュレーションと社会的コミュニケーションのシミュレーションを融合するシステムを利用し、身体性に基づく社会的知能のメカニズムを構成論的に研究する。 情報学プリンシプル研究系・准教授 稲邑 哲也	inamura□nii.ac.jp
16	適応的ヒューマンロボットインタラクションシステム	人間を含めた実世界情報をリアルタイムに認知し、経験として蓄積しながら状況に適応していく、人間ロボット間のインタラクションシステムの研究。 情報学プリンシプル研究系・准教授 稲邑 哲也	inamura□nii.ac.jp
17	多様な情報からの知識発見技術に関する研究	Webデータ、文献データ、医療データなどを対象として、新たな知識を発見する手法に関する研究。 情報学プリンシプル研究系・准教授 市瀬 龍太郎	ichise□nii.ac.jp
18	将来ネットワークの基盤技術に関する研究	新世代ネットワークに代表されるように、現在のIPネットワークの置換あるいは包含も視野に入れた将来ネットワークに関する基盤技術やアーキテクチャを様々な角度から研究する。 アーキテクチャ科学研究系・教授 山田 茂樹	shigeki□nii.ac.jp
19	形式手法の実用化に関する研究	ディペンダブルソフトウェア開発を目的として、形式手法と既存手法(テスト等)を組み合わせた信頼性確保技術に関する研究。 アーキテクチャ科学研究系・教授 中島 震	nkjm□nii.ac.jp
20	自動検証技術の新しい応用に関する研究	フィーチャ相互作用検知などに検証技術を応用するディペンダブルシステム基盤技術に関する研究。 アーキテクチャ科学研究系・教授 中島 震	nkjm□nii.ac.jp
21	組み込みシステムの高信頼化に関する研究	車載ソフトウェアなど制御対象と制御系の双方が複雑に絡み合うシステムを対象としたモデリングおよび自動検証に関する研究。 アーキテクチャ科学研究系・教授 中島 震	nkjm□nii.ac.jp
22	コンピュータサイエンスによる環境支援技術	プログラム解析手法を使った共同物流トラック集配経路の最適化や選択に関する研究を行い、実証事件を開始している。物流に限らず現実世界の問題、例えば環境問題などにコンピュータサイエンス手法を利用する 研究テーマを募集する。 アーキテクチャ科学研究系・教授 佐藤 一郎	ichiro□nii.ac.jp
23	高信頼性分散システム	適応可能性をもつ次世代高信頼性分散システムを実現するミドルウェアの設計・実装を行っており、新しい分散・ネットワークシステム向けのシステムソフトウェアに関する研究テーマを募集する。 アーキテクチャ科学研究系・教授 佐藤 一郎	ichiro□nii.ac.jp
24	位置依存サービス	コンピュータによる仮想世界と物理世界を融合したユビキタスコンピューティングシステムに関する研究テーマを募集する。具体的には位置やユーザなどのコンテキスト情報を利用した次世代サービスの基盤技術または応用に関する研究を行っている。 アーキテクチャ科学研究系・教授 佐藤 一郎	ichiro□nii.ac.jp
25	双方向モデル変換に関する研究	モデル駆動型ソフトウェア開発における双方向モデル変換(bidirectional model transformation)の言語的基盤の確立、双方向モデル変換を 実際のソフトウェア開発過程へ適用する手法の開発、および、双方向変換に基づいてソフトウェア開発の全過程を支援する統合的で実用的な環境の開発を行う。 アーキテクチャ科学研究系・教授 胡 振江	hu□nii.ac.jp
26	アルゴリズム演算に関する研究	構成的アルゴリズム論に基づいて、様々問題が扱える「仕様ライブラリ」と仕様から効率的アルゴリズムを導出するための「設計理論ライブラリ」とを設計し、定理証明システムを用いてこれらのライブラリを実現する。 アーキテクチャ科学研究系・教授 胡 振江	hu□nii.ac.jp
27	スケルトン並列プログラミングに関する研究	スケルトン並列ライブラリを最先端のプロセッサアーキテクチャに適合させて並列性を隠蔽するためのライブラリを開発する。 アーキテクチャ科学研究系・教授 胡 振江	hu□nii.ac.jp

番号	研究事項	研究概要	
		担当教員	連絡先 e-mail ※□を@に変えて送って下さい
28	制約プログラミングに関する研究	問題を宣言的に記述することでプログラムを構築する手法である制約プログラミングを対象として、新しい枠組み、言語、要素技術の構築や、処理系、応用システムの開発などを目的とする研究を行う。 アーキテクチャ科学研究系・准教授 細部 博史	hosobe□nii.ac.jp
29	対話的情報可視化に関する研究	大規模な情報や複雑な情報を可視化し、さらにユーザが可視化結果を対話的に操作することで、可視化対象の直観的な理解と分析を可能にするための枠組みや、要素技術、システムなどの構築を目的とする研究を行う。 アーキテクチャ科学研究系・准教授 細部 博史	hosobe□nii.ac.jp
30	セキュリティ・ソフトウェア工学に関する研究	セキュリティやセーフティの非機能要求からシステムの機能・制約に落とし込む方法や設計がセキュリティ制約を満たしているかどうかをチェックするための手法・ツールに関する研究・開発 アーキテクチャ科学研究系・准教授 吉岡 信和	nobukazu□nii.ac.jp
31	ルータセントリック・インフラストラクチャに関する研究	インターネット上の情報の収集、整理を効率的に行うためにインターネット・ルータが情報の共有、検索に積極的に関わるインフラ技術に関する研究 アーキテクチャ科学研究系・准教授 鯉淵 道紘	koibuchi□nii.ac.jp
32	システム・インターコネクタに関する研究	並列分散システムにおいて近年、特に重要となっている省電力、低遅延、高信頼性に関するインターコネクタ・アーキテクチャの研究 アーキテクチャ科学研究系・准教授 鯉淵 道紘	koibuchi□nii.ac.jp
33	Web情報アクセス技術に関する研究	Web情報活用に関して様々な角度からWebデータコレクションを用いた研究を行う。ロボット技術、リンク解析、情報検索・抽出、利用者行動分析など、幅広い研究を募集する。 コンテンツ科学研究系・教授 大山 敬三	oyama□nii.ac.jp
34	文化財情報発信に関する研究	文化財の利活用場面を拡大する新しい文化財情報発信サービスに関する研究テーマを募集する。当方は「文化遺産オンライン」や「国立美術館遊歩館」など、文化財の画像とメタデータを活用した文化財情報発信サービスの研究と開発を行っている。 コンテンツ科学研究系・教授 高野 明彦	aki□nii.ac.jp
35	連想計算を活用した情報アクセス手法に関する研究	連想検索や情報クラスタリングで使われる連想計算を利用して、電子情報空間をナビゲートする新しい手法に関する研究を募集する。当方は連想計算エンジンGETAを用いてWebcat Plus、新書マップ、想・IMAGINE等の情報サービスの研究開発を行っている。 コンテンツ科学研究系・教授 高野 明彦	aki□nii.ac.jp
36	映像アーカイブを用いたマルチメディアコンテンツ解析におけるセマンティックギャップ克服	TRECVID映像アーカイブやNIIで構築している放送映像アーカイブ等に基づき、画像・映像等のマルチメディア情報の内容解析、それに基づく検索、ブラウジング、マイニング、さらには解析結果に基づく応用等に関する研究を募集する。 コンテンツ科学研究系・教授 佐藤 真一	satoh□nii.ac.jp
37	ユーザフィードバックからのユーザ意図推定の確率的アプローチ	インタラクティブデータマイニングシステムにおいて、ユーザからのフィードバックの意図を独立成分分析などの確率モデルを用いて推定する基礎研究と応用システムの開発を行う。 コンテンツ科学研究系・教授 山田 誠二	seiji□nii.ac.jp
38	人間とエージェント間の適応ギャップ仮説の展開と実験的検証	HAIのデザインに設計指針を与える、人間が推定するエージェントの機能と実際の機能の差異である適応ギャップの洗練と実験的検証を行う。 コンテンツ科学研究系・教授 山田 誠二	seiji□nii.ac.jp
39	ユーザの機能を発見を促し、触るだけで操作できる汎用家電リモコンエージェント	生物と人工物の中間的なアピランスをもち、部分実行を応用して、触っているうちにマニュアルなしで使い方がわかる汎用のエージェント型家電リモコンの研究、開発を行う。 コンテンツ科学研究系・教授 山田 誠二	seiji□nii.ac.jp
40	適合性判定のための認知的負荷の低いユーザインタフェースの開発	2つの文書や画像が適合するか否かの判定をユーザが行うことは、様々な対話的情報検索、データマイニングにおいて重要なタスクである。本研究では、できるだけ認知的負荷のかからない適合性判定のユーザインタフェースを開発し、有効性を実験的に検証する。 コンテンツ科学研究系・教授 山田 誠二	seiji□nii.ac.jp

番号	研究事項	研究概要	
		担当教員	連絡先 e-mail ※□を@に変えて送って下さい
41	テキストからのトピック抽出と活用に関する研究	トピックを用いた文書の生成モデルやその学習法、文書モデルによって得られる文書のトピック分布を用いた情報の分類・トラッキング・統合に関する研究を募集する。 コンテンツ科学研究系・教授 高須 淳宏	takasu□nii.ac.jp
42	文字列・木・グラフの近似マッチングと効率的な処理法に関する研究	文字列や木・グラフ構造を持つデータの近似マッチング法および大規模データのマッチングを効率的に行うためのアルゴリズムやインデキシングに関する研究を募集する。 コンテンツ科学研究系・教授 高須 淳宏	takasu□nii.ac.jp
43	テキストからの情報抽出に関する研究 Information extraction from text	固有表現の抽出や情報同定、辞書資源の自動構築 named entity extraction, information identification and linkage, automatic construction of linguistic resources コンテンツ科学研究系・教授 相澤 彰子	aizawa□nii.ac.jp
44	テキストメディアを介したコミュニケーションに関する研究 Text-based communication	会話インタフェースおよびテキスト・コミュニケーション分析 chatbot, analysis of communication style on text media コンテンツ科学研究系・教授 相澤 彰子	aizawa□nii.ac.jp
45	ネットワーク構造をもつデータに関する研究 Analysis and utilization of network structure data	共著ネットワーク、共起語ネットワーク、ソーシャルネットワークなどのモデル化と特徴抽出 Modeling and characterization of networks of co-authorship, word co-occurrence or social relationship コンテンツ科学研究系・教授 相澤 彰子	aizawa□nii.ac.jp
46	日常生活環境における人間の行動計測技術の研究開発	日常生活環境において人間と共生する機械の実現を目指して、(1)実世界環境に埋め込まれた視覚センサ群および人間が身につけた視覚センサからの情報によって、人間の意図や行動の意味を計算機に理解させること、(2)その結果に基づいて人間との動的インタラクションを自発的に行うシステムを構築すること、を目的とする。 コンテンツ科学研究系・教授 杉本 晃宏	sugimoto□nii.ac.jp
47	物体3次元形状の簡易モデル化	視覚センサを備えた装着型コンピューティング環境のもとで必要となるヒューマン・コンピュータ・インタラクションとして、ユーザの普段のなにげない動作を通して得られる視覚情報を加工・編集し、その結果を必要に応じてユーザに提示することによって、ユーザの日常生活における利便性を向上させるシステムの実現を目指す。 コンテンツ科学研究系・教授 杉本 晃宏	sugimoto□nii.ac.jp
48	離散コンピュータビジョンの構築	誤差をその発生要因に基づいて、デジタル化による離散化誤差と観測によって生じる観測誤差とに区別して取り扱うという着想に基づき、デジタル画像を扱うために避けては通れない離散化誤差に焦点を当てる。そして、離散化誤差が存在することを前提として、コンピュータビジョンでこれまでに得られた性質を再構築する。 コンテンツ科学研究系・教授 杉本 晃宏	sugimoto□nii.ac.jp
49	大規模分散地球環境データベースに関する研究	地球環境データを蓄積し情報・知識を引き出すために必要となる、地理的分散データベースの統合や、地球環境データに適した検索・可視化手法、多数の人々を対象とした情報集約手法などに関する研究。 コンテンツ科学研究系・准教授 北本 朝展	kitamoto□nii.ac.jp
50	デジタルアーカイブの基盤技術に関する研究	デジタルアーカイブを構築するための基盤技術となる、メタデータや地理情報、画像情報等の大規模な処理や蓄積、利用に関する研究。 コンテンツ科学研究系・准教授 北本 朝展	kitamoto□nii.ac.jp
51	大規模映像コーパスの高次解析を実現するためのデータベース高速化技術	大規模映像アーカイブを映像コーパス(映像の包括的な集積)として利用するためには、大量の映像にも適用可能なスケーラブルな解析処理の実現が不可欠であり、そのための高速化・効率化技術に関する研究 コンテンツ科学研究系・准教授 片山 紀生	katayama□nii.ac.jp
52	音声コンテンツ向け情報ハイディングの研究	音声コンテンツを対象としたリアルタイム処理による情報埋め込み・検出技術の研究、および当該技術を用いた応用システムを検討する。 コンテンツ科学研究系・准教授 越前 功	iechizen□nii.ac.jp
53	情報ハイディングの統一評価手法に関する研究	情報ハイディング分野では多くの方式が提案されているが、評価手法が様々であるため、第三者からみてどの方式が良いのか判断がつかない状況にある。上記を鑑み本研究では、情報ハイディングに関する標準的な評価手法を構築し、第三者が、想定している用途に関する適切な方式を容易に選定できるスキームを検討する。 コンテンツ科学研究系・准教授 越前 功	iechizen□nii.ac.jp

番号	研究事項	研究概要	
		担当教員	連絡先 e-mail ※□を@に変えて送って下さい
54	IRDBを活用した分野別ポータルとその動向解析に関する研究	機関リポジトリの一定の普及を踏まえて、さらなる学術コンテンツ流通促進のために、機関リポジトリ(群)上に分野別ポータルを配置するモデルを考察・構築する。また、その効果を定量的に評価するために必要な、ログ解析等の基準を定める研究。 学術ネットワーク研究開発センター・准教授 山地 一禎	yamaji□nii.ac.jp
55	学術論文へのアノテーション付与と共有に関する研究	学術論文のデジタル化が進む中、その文献へのアノテーションの管理は、欄外やノートなどに残すという旧来の手法をとることが多い。このアノテーションを文献と同様に、効率よく管理するとともに、それを研究者間で共有するためのプラットフォーム構築に関する研究。 学術ネットワーク研究開発センター・准教授 山地 一禎	yamaji□nii.ac.jp
56	多様な学術コンテンツの流通促進のための認証技術に関する研究	学術認証フェデレーションの試行運用が進む中、機関によるIdP、学術リソース・コンテンツプロバイダーによるSPの構築が活発に進められている。IdP機能のエンハンスメントやウェブアプリケーションのSP化に関する技術開発または動向調査などに関する研究。 学術ネットワーク研究開発センター・准教授 山地 一禎	yamaji□nii.ac.jp
57	学術情報サービスにおけるセマンティックウェブ技術の活用	本テーマではNIIが運営する学術情報サービスについて、論文・書籍データを対象とした情報の構造化、Linked Dataの活用等に関する研究開発を行う。また実用化を目指したシステム設計を行う。 コンテンツ科学研究系・准教授 大向 一輝	i2k□nii.ac.jp
58	学術情報サービスにおけるユーザエクスペリエンスデザイン	本テーマではNIIが運営する学術情報サービスについて、ユーザビリティやアクセシビリティに関する調査・分析を行う。また、ユーザエクスペリエンス向上のためのシステム設計を行う。 コンテンツ科学研究系・准教授 大向 一輝	i2k□nii.ac.jp
59	多人数インタラクション理解とその応用に関する研究	多人数インタラクションとは、3人以上の人々が自由に会話する、課題志向の会話をするといった場面のことを指す。欧米では、AMIやAMIDAプロジェクトを始めとする多人数インタラクション理解に関する大規模研究プロジェクトが進められてきた。本研究テーマでは、多人数インタラクション研究の人文科学的アプローチと情報学アプローチ、またそれらを統合するアプローチを幅広く募る。 コンテンツ科学研究系・助教 坊農 真弓	bono□nii.ac.jp
60	マルチモーダルインタラクションデータ収録・分析環境構築に関する研究	近年、データ中心科学的手法の重要性が指摘されており、実際の会話や講演音声を収録した音声コーパスの配布が進められている。次に課題となるのは、対面会話状況で交わされる身体配置や視線方向といった身体表現と音声言語表現とを統合的に収録・分析する環境の構築である。本研究テーマでは、マルチモーダルインタラクション研究の人文科学的アプローチと情報学アプローチ、またそれらを統合するアプローチを幅広く募る。 コンテンツ科学研究系・助教 坊農 真弓	bono□nii.ac.jp
61	手話コミュニケーションと手話コミュニティに関する研究	日本における手話研究は、アメリカのそれと比べ、30年ほど遅れていると指摘されている。国内には、手話を母語とするろう者がどういった言語コミュニケーション環境を保持しているかについて、包括的にまとめた書物などもまだ少ない。本研究テーマでは、手話コミュニケーションと手話コミュニティに関し、言語学、社会学、文化人類学、工学、情報学などの観点から世の中に発信する研究を コンテンツ科学研究系・助教 坊農 真弓	bono□nii.ac.jp
62	遠隔コミュニケーション技術とその利用に関する研究	近年、我々の日常生活に、Skypeなどのソフトウェアを使った遠隔コミュニケーションが徐々に浸透しつつある。二つ以上の空間を結びつけた状況では、従来のコミュニケーション理論では説明できない現象が数多く起こっていると推測される。本研究テーマでは、人のやりとりを重視した次世代遠隔コミュニケーション技術の提案やその利用に関するコミュニケーション研究を幅広く募る。 コンテンツ科学研究系・助教 坊農 真弓	bono□nii.ac.jp
63	視覚情報の言語化とその応用に関する研究	カメラで捉えた動画の内容を自然言語の多様な文体で柔軟に表現するための、視覚認知構造、意味構造、語彙・文法知識表現、文体選択・文章生成アルゴリズムに関する総合的な研究。言語化された内容を用いたアノテーションや検索、要約、推論、問題解決支援などの応用研究も含む。 情報社会相関研究系・教授 小山 照夫	t_koyama□nii.ac.jp
64	日本語複合語内部係り関係の研究	日本語複合語に関して、その内部での形態素間の係り関係を明かにする方法論について研究する。従来定義されてきたよりも詳細な形態素分類について検討するとともに、形態素分類と形態素結合パターンに基づいて、複合語内部での係り関係を決定する方法を確立することを目指す。 情報社会相関研究系・教授 小山 照夫	t_koyama□nii.ac.jp
65	情報アクセス技術の評価とコミュニティ型研究基盤構築に関する研究	テキストまたは非テキストメディア(画像、映像など)、SocialMedia(Blog, SNS, コミュニティ型QA、Twitterなど)を対象とした検索、要約、質問応答、分類、マイニングなどの情報アクセス技術の研究と評価実験に必要な研究基盤データの構築、評価手法、研究コミュニティの創成、システムの部品化と共有等のための研究基盤の構築に関する研究 情報社会相関研究系・教授 神門 典子	kando□nii.ac.jp
66	Diversityに着目した情報アクセスシステムの研究	Facet検索、Web検索、Enterpriseサーチ、探索型検索など、多様な場面で、実際の情報検索や情報アクセスの場面では、検索結果のDiversityは重要である。Diversityに着目した情報アクセスシステムの設計、構築、評価に関する研究 情報社会相関研究系・教授 神門 典子	kando□nii.ac.jp

		研究概要	
番号	研究事項	担当教員	連絡先 e-mail
			※□を@に変えて送ってください
67	探索型検索システムに関する認知的研究	利用者の探索的な情報検索行動の調査、利用者サイドのログの収集と分析、それらに基づく対話的な探索型情報アクセスシステムの設計・構築・評価に関する実証的研究	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授 神門 典子	
68	多言語情報に関する戦略的情報アクセスシステム	オンラインニュース、ブログなどの多言語時系列情報のテキスト、音声、静止画等、ビデオを対象とした戦略的な情報検索・分析・要約・高度質問応答システムに関する研究。時系列性をもつ時事情報の分析や理解生成、セレンディピティ導出、多言語情報に対する言語横断アクセスの研究も含む。	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授 神門 典子	
69	情報セキュリティレベルの向上に関する研究	情報セキュリティに関する政府機関統一基準に準拠した高等教育機関のためのセキュリティポリシーのサンプル規程の改訂ならびに運用、および情報セキュリティ教育のためのコンテンツの作成と普及に関する研究。	okada□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・准教授 岡田 仁志	
70	次世代網上でアプリケーションに関する諸問題の検討	次世代網上でアプリケーションに関する諸問題の検討研究事項概要: 本格的に始動を開始した次世代アクセス網でのアプリケーション分野における公共および産業分野における諸問題を社会・経済分析の観点から国際・国内比較検討し、情報制度論の構築に取り組む。	ueda□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・助教 上田 昌史	
71	政治過程におけるICT利用の効果研究	選挙過程におけるICT利用の効果や、マスメディア接触との相互作用に関する研究。特に、社会における政治的情報の流通という観点から、マスコミュニケーションと対人コミュニケーションの相互作用に注目した検討を行う。	k-tetsu□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・助教 小林 哲郎	
72	ICT利用とパーソナル・ネットワークに関する研究	対人コミュニケーションメディアとしてのICT利用が、人々のパーソナル・ネットワークの質・量に対してどのような効果をもたらすかを検討する。特に、パーソナル・ネットワークの同質性・異質性に注目する。	k-tetsu□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・助教 小林 哲郎	
73	ウェブ情報からの世論抽出に関する研究	CGMを通して蓄積されたWeb情報から世論のダイナミクスを抽出する方法論や実践についての研究。特に、従来の世論調査との関連から、社会科学と工学の学際的連携に重点を置いた研究を行う。	k-tetsu□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・助教 小林 哲郎	